

**製品名: SH-PTP1 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab17872**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	67kDa

**抗原情報**

遺伝子名	PTPN6
別名	PTPN6; HCP; PTP1C; Tyrosine-protein phosphatase non-receptor type 6; Hematopoietic cell protein-tyrosine phosphatase; Protein-tyrosine phosphatase 1C; PTP-1C; Protein-tyrosine phosphatase SHP-1; SH-PTP1
遺伝子 ID	5777.0
SwissProt ID	P29350
免疫原	抗血清はヒト SHP-1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 502-551

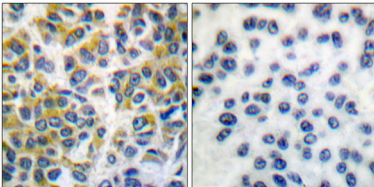
**背景**

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、タンパク質チロシンホスファターゼ (PTP) ファミリーのメンバーです。PTPは、細胞の成長、分化、有糸分裂周期、および癌化を含むさまざまな細胞プロセスを制御するシグナル伝達分子として知られています。このPTPのN末端部には、タンパク質リン酸化チロシン結合ドメインとして機能し、このPTPとその基質との相互作用を媒介する2つのタンデムなSrcホモログ (SH2) ドメインが含まれています。このPTPは主に造血細胞で発現し、造血細胞における複数のシグナル伝達経路の重要な調節因子として機能します。このPTPは、造血細胞のシグナル伝達に参与する広範囲のリン酸化タンパク質と相互作用し、脱リン酸化することが示されている。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする複数の選択的スプライシングバリエントが報告されています。[RefSeq 提供、7月] 触媒活性: タンパク質チロシンリン酸 + H(2)O = タンパク質チロシン + リン酸。機能: 造血において重要な役割を果たします。このPTPase活性は、タンパク質チロシンリン酸化を介して、成長因子受容体やその他のシグナル伝達タンパク質と直接結合する可能性があります。SH2領域は他の細胞成分と相互作用し、相互作用する基質に対する自身のホスファターゼ活性を調節する可能性があります。MTUS1とともに、アンジオテンシンII刺激によりUBE2V2の発現を誘導します。PTM: セリンおよびチロシン残基がリン酸化されています。類似性: タンパク質チロシンホスファターゼファミリーに属します。非受容体クラス2サブファミリー。類似性: チロシンタンパク質ホスファターゼドメインを1つ含む。類似性: SH2ドメインを2つ含む。細胞内局在: ニューロンにおいて、アンジオテンシンII処理後に核へ移行する。サブユニット: モノマー。MTUS1と相互作用する(類似性による)。PTPNS1、LILRB1、LILRB2に結合する。FCRL2、FCRL3、FCRL4、CD300LF、CD84と相互作用する。組織特異性: アイソフォーム1は造血細胞で発現し、アイソフォーム2は非造血細胞で発現する。、

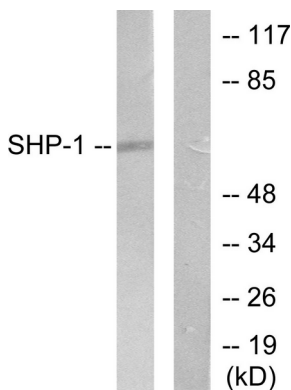
## 研究分野

B細胞抗原; 接着結合; T細胞受容体; MAPK; タンパク質アセチル化

## 画像データ

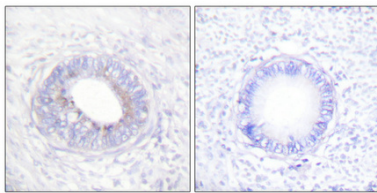
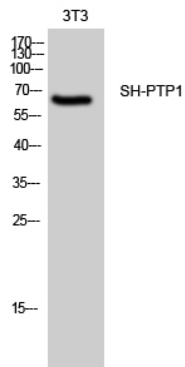


SHP-1抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



SHP-1抗体を用いたNIH/3T3細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。

SH-PTP1 ポリクローナル抗体を用いた3T3細胞のウェスタンブロット解析



パラフィン包埋ヒト大腸癌の免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4℃、一晚) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。